

研究論文

「価値交流学習」から見えてきた「対話」的な学び  
～多様な価値観への気づきの醸成～

中 川 千 代

はじめに

厚生労働省は2018(平成30)年2月、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会で「介護福祉士養成課程の教育内容の見直しについて」を提示し、新たな「求められる介護福祉士像」が明らかになった。そして、カリキュラムの改正・導入と併せ、国家試験の内容・水準について必要な見直しを行い、改正カリキュラム対応の国家試験を令和4年度より開始することを目指して取組を進めることとなった。本学も2021(令和3)年度より新カリキュラム対応の科目編成を導入している。

筆者は、2002(平成14)年4月から介護福祉士養成校の教員となった。その後、介護福祉士を目指す多くの学生たちとともに学びながら支援を続けている。介護福祉士養成課程は上記以前に2009(平成21)年度に新たなカリキュラム体系が提示されカリキュラムは大幅に変更された。その当時から、期待と不安と戸惑いのなか新たな授業案を模索しながら、学生たちにいかに伝えるか、どうやって理解してもらうか、自ら「学ぶ」という姿勢を引き起こすためにどう関わるか、学生側が授業を受けながら考える「仕組み」をどう組み立てるのか、日々考えながら学生に向かい合ってきた。2009(平成21)年本学に着任以来、「コミュニケーション技術」(30時間)を担当している。2009年からのカリキュラムでは「コミュニケーション技術」は60時間設定されているが、本学では「コミュニケーション技術」と「レクリエーション援助法」の2科目に分け、後半はレクリエーションを通して様々な障害を持った方々とのコミュニケーションを教授してきた。2021年度からは「コミュニケーション技術Ⅰ」「コミュニケーション技術Ⅱ」という編成に変更した。筆者は1年前期に「コミュニケーション技術Ⅰ」(30時間)のみを担当している。そのシラバスに「価値交流学習」を4時間ほど組み込んできた。10年間の授業のなかで学生たちの学びの過程をまとめ、今後さらなる授業の深化に取り組めるよう検討する。

1. 介護におけるコミュニケーション

川廷(2019:p.20-24)は、「介護教育方法の理論と実践」のなかで、介護のエキスパートとして求められる力量を以下のように述べている。①要介護者から何が求められているのか、素早く察知する力(アセスメント能力)、②その上で、今何をしなければならないかを素早く察知し、その場に対応した適切なコミュニケーション技術を駆使して、それを要介護者に確認できる力、③それは当然、次にその内容を適切に段取りし、介護過程に展開で

きる力、④③で立案された計画を要介護者にとって快適に実行できる能力、⑤このようにして実行した後、すぐに②と照らし合わせて効果を確認し、次の目標を確認していく力、⑥これらのプロセスを適切に要約して記録に残す能力、⑦それらの能力が適切に発揮されるためには、要介護者の人生に寄り添える力量が必要、⑧そしてそれができると、介護者にも大きな学びや満足感が得られ、そのことにより要介護者から信頼される実感を持つ力（要介護者は明確な表現で信頼感を介護者に伝えられるとは限らない。そういう要介護者の感情を読み取っていく力量、そして周囲の介護職員にも、こういう要介護者の心情を中継することができる力）も必要である。また、次のようにも述べている。介護という行為は、ある意味で、介護者と要介護者の共同の（創造的）行動として成立する。要介護者の幸福につながる「本人が求める介護」を行うには、介護者が一方的に指示命令しその通り動かされるというパターン（私物的人間関係）ではなく、一見非効率的に見えるが、共同で介護を創り上げていく方が効率的であり、自立を促し得るのである。このような介護を行うためには、自分がどういう人間観を持っているのかを分析し、それを自覚した上で、共同で一つひとつの介護を創り上げていくという社会的人間関係の中で介護を行っていくことが大切である。

介護を専門的に行うために求められるコミュニケーションは、要介護者のコミュニケーション能力や状態を的確に把握した上で、その場に応じたコミュニケーション技術を駆使し、要介護者やその家族に確認や了解を得ながら、多職種と連携協働したうえで介護過程を展開し、記録に残し報告・連絡・相談をチームとして密に行うことができる能力だといえる。また、それを行うにあたり、信頼関係を築ける人間性や様々な価値観を受け入れることができる柔軟な考え方を養うことが必要である。それには「対話力」を育成することが大切だと考える。

## 2. 対話力の育成に関わる先行研究

北田（2021：p.124）によると、多田（2017）は対話とは「自己および多様な他者や様々な対象と語り合い、差異を生かし、新たな智慧や価値・解決策などを共に創り、その過程で良好で創造的な関係を構築していくための言語・非言語による継続・発展・深化する表現活動」であると定義している。それをもとに、北田（2021）は対話力を「自己および多様な他者や様々な対象と語り合い、差異を生かし、新たな智慧や価値・解決策などを共に創り、その過程で良好で創造的な関係を構築していく力」と捉えた。

また、多田（2018）は、対話力を高めるためには、学習者の対話力の状況を把握することがその第一歩であると指摘し、対話力を5段階に分類している（p.6、表1）。そして、対話型授業について、多田（2017）はその定義を「自己内対話と他者との対話の往還により、差異を尊重し、思考を深め、視野を広げ、新しい智慧や価値、解決策を創り上げていき、その過程を通して、参加者相互が、共創的な関係を構築していく協同・探究的な学習活動」

(p.103) とし、その意義を「学習者の知的世界の拡大、創造的関係の構築・自己変革・自己成長」(p.99) ととらえている。その上で、これまでの対話・対話型授業の実践研究に関する理論研究から導き出された要件と、長期にわたって対話型授業の実践研究に取り組んできた各地の学校の研究から析出された要件とを集約し「対話型授業の12の要件」(表2)を選定した(多田2017:p.213)。

北田(2021:p.125)は、多田の対話力の段階的分類をベースに、対話力構造化表を作成した。対話に必要な要素を「考える力」「伝える力」「受け取る力」「対話への意識」の4つに分類し、それぞれステージ毎に、対話を進める者達の具体的な姿を明記した(表3)。

表1. 多田孝志による対話力の段階的分類

対話のステージ	学習者の状況
ステージ1	対話に参加する意識が希薄で、自分の考えが持てず、また、語るに足る体験や考えを持っていることに気付かず、傍観的な態度の子どもたちが多い。
ステージ2	発言力のある子が数多く発言してはいるが、自分本位で、共創意識が希薄である。他方、自分の考えを持ち始めたが、伝える自信がなく、自己表現しない子たちもいる。
ステージ3	自分の伝えたいことを伝え、相手の伝えたいことを聴き取り、対話できる。しかし一定の結論が出ると、とどまってしまう。ときには少数者の切り捨てや、結論を急ぐ集団浅慮が起きてしまう。
ステージ4	参加者が主体的に参加し、受容的雰囲気の中で内省的な探究をし、また、さまざまな意見・感覚・体験が出され、論議が広がっていくが、意見や感想が絡み合わず、深まっていけない。
ステージ5	参加者全員が当事者意識・共創意識を持ち、多様な見解・対立のズレを生かし、様々な見解や感想を分類・整理しつつ、解や智慧を共創していく。さらに、新たな問いを発見し、次々と知的世界を探究していく。

表2. 多田孝志による対話型授業の12の要件

①	対話の活性化のための物的・人的な受容的雰囲気づくり	⑦	批判的思考力の活用
②	多様な他者との対話機会の意図的設定	⑧	非言語表現力の育成と活用
③	多様性の尊重、対立や異見の活用	⑨	他者の心情や立場への共感・イメージ力の錬磨と活用
④	自己内対話と他者・対象との対話の往還	⑩	思考力・対話力に関わる基本技能の習得
⑤	沈黙の時間の確保や混沌・混乱の活用	⑪	思考の深化を継続する方途の工夫
⑥	対話への主体的な参加を促す手立ての工夫	⑫	学習の振り返り・省察

表 3. 北田奈緒子による対話力構造化表

対話の ステージ	考える力	伝える力	受け取る力	対話への意識
0 対話前	課題を把握していない。	相手に伝える意欲や意思がない。	相手の話を聞こうとしていない。	対話への意欲や意思がない。
1 傍観者型	課題を把握しているが、自分の考えがもてない。自分の考えを自覚していない。	思ったことを言葉にすることができないでいる。	相手の話が自分に向けられていることに気付いていない。	傍観者の態度で、対話に対する意識が希薄である。
2 自分本位型	自分の考えを自覚しつつある。	自分の考えを短い言葉で表現している。	相手の話をさまざまに聞いている。	自分本位な態度で、共創意識は希薄である。伝えるだけで終わったり、自信のなさから意見を言えなかったりする。
3 結論急ぎ型	自分の考えを自覚している。	自分の考えを言葉にし、話している。	相手が話しやすい態度で聞き、大事なところを落とさず聞き取っている。	対話しようという意識はあるが、一定の結論が出ると、そこに留まらずに少数意見を切り捨てたり、深く考えずに結論を急いだりする。
4 受容・ 拡散型	自分の考えと相手の考えの共通点や相違点に気付いている。	自分の考えを、その場にふさわしい話し方で相手に伝えている。	相手の考えに興味をもち、応答しながら正確に聞き取っている。	主体的・受容的な雰囲気の中で対話できる。様々な意見を出し合っただけで論議を広げようとする。
5 共創型	様々な意見や感想を分類・整理することができる。考えの違いを生かして、新しい考えや問い(課題)を発見することができる。	自分の話し方の効果や相手の受け取り方を確かめながら話している。	相手の意図や考えを理解し自分の考えとつなぎながら聞いている。	全員が当事者意識をもって対話できる。お互いの考えの違いを生かして、新しい考えを生みだそうとしている。

### 3. 「価値交流学习」の概要

「価値交流学习」は、大谷佳子の著書から引用したものを教材として筆者の担当している「コミュニケーション技術Ⅰ」の授業内で行っている。2021（令和3）年度前期に1年生対象で行ったシラバスを原文のまま以下に示す。

#### (1) 「コミュニケーション技術Ⅰ 2021」のシラバス内容

- ①テーマ：介護福祉実践に必要なコミュニケーション能力の開発
- ②到達目標：1) 介護福祉実践におけるコミュニケーションの役割を知る 2) アクティブ・リスニングのしくみを知り、活用できる 3) 利用者やその家族に関わる際の原則や感情コントロールについて理解する
- ③授業概要：コミュニケーションの果たす役割を理解した上で、生活機能の低下した利用者やその家族への関わり方、また、多職種協働を実現するためのコミュニケーション

ン等に学びをつなげていけるよう基本的な話の聴き方に気づけるよう演習を重ねる。

- ④学修に関する留意事項：授業で行う演習には積極的に取り組みましょう。しっかり取り組んでいる学生はより評価します。演習の中で行ったことを普段の生活の中（時間外学習）でも意識して行ってみて、どうすれば自分のメッセージがうまく伝わるのか工夫し考えるようにしてみましょう。また、相手のメッセージがきちんと理解できているのか振り返るようにしよう。
- ⑤成績評価方法：表4に示すとおりである。
- ⑥テキスト：

表4. 成績評価方法・基準

介護福祉士養成講座編集委員会編  
最新介護福祉士養成講座 5  
「コミュニケーション技術」  
中央法規出版

評価項目	割合
授業に対する取り組み (到達目標1、2)	20%
課題レポート (到達目標2、3)	20%
試験 (到達目標1、2、3)	60%

- ⑦授業内容・時間外学習（予習・復習）～  
2021年度：全15回のうち「価値交流学习」の授業を第10・11回に設定した（表5参照）。

表5. コミュニケーション技術Iの授業内容・時間外学習について（一部抜粋）

授業回	授業内容・時間外学習（予習・復習）
10	介護者としての自分自身の理解（価値交流学习）～グループで「自分の大切にしている価値について」意見を述べ合い、グループでの対話を通して合意形成するため根拠を述べ合いディスカッションする。教科書P.56～集団でのコミュニケーション、P.186～メンバー間の合意形成〈時間外学習〉（予習）単語調べを行う。（15分）／（復習）本時の授業内容を再度考え直してみる。（10分）
11	話を聴く技法～傾聴の姿勢について。自分の価値観を知ったうえで、相手の価値観を尊重する姿勢を学ぶ。グループ毎に発表する。価値交流学习の振り返りを行う。〈時間外学習〉（予習及び復習）授業で行った他人の話を聴く際の自分の態度を意識する。（30分）宿題「価値交流学习振り返りシートの作成」（20分）

- ⑧特記事項：コミュニケーションはよりよい人間関係の基本です。相手の思いを受け止め、こちらの思いを返すという「思いのキャッチボール」ができることがコミュニケーションそのものです。特にコミュニケーションが苦手という人は、何をどのように気をつければよいのかを考える機会にしてください。
- ⑨介護福祉士としての実務経験あります。

## (2) 対象学生の属性

2012（平成24）年度から2021（令和3）年度までの10年間の本学キャリア育成学科介護福祉コースに在籍した学生は、入学当初は介護福祉士資格取得必須科目である「コミュニケーション技術」の授業は全員が受講している。図1からもわかるように男子学生は10

「価値交流学習」から見てきた「対話」的な学び

～20%で推移しているが2014年と2015年は33～39%となった。また、2020年度は26名中1名のみだった。

また、2012～2015年度に関しては高等学校卒業（高卒）直後の日本人がほとんどを占めており極少数の留学生は漢字圏（中国）であった。2012年度は全体数が少ない中、社会人学生3名が影響力を持っていた。2016年度からは非漢字圏の留学生が増え始め2019年度以降は日本人学生が少数となり2019年度は中国、ベトナム、ネパール、フィリピン、スリランカの5カ国であったが2020～2021年度は留学生全員がネパール出身という構成となった（図2参照）。

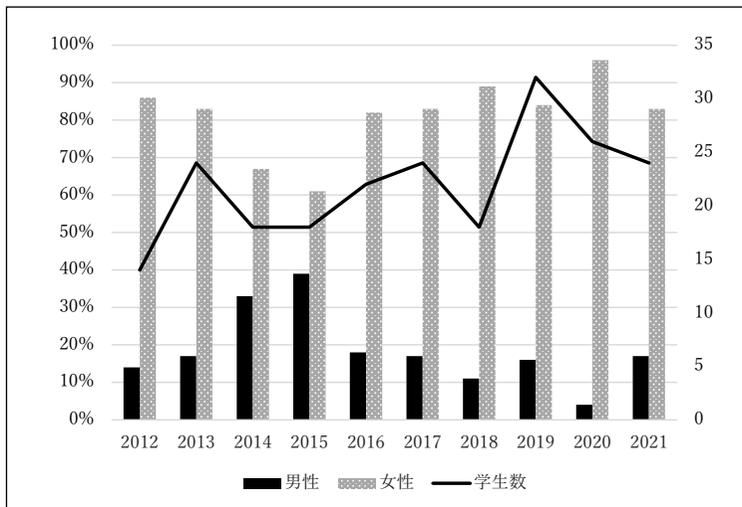


図1. 10年間の対象学生数と男女の比率

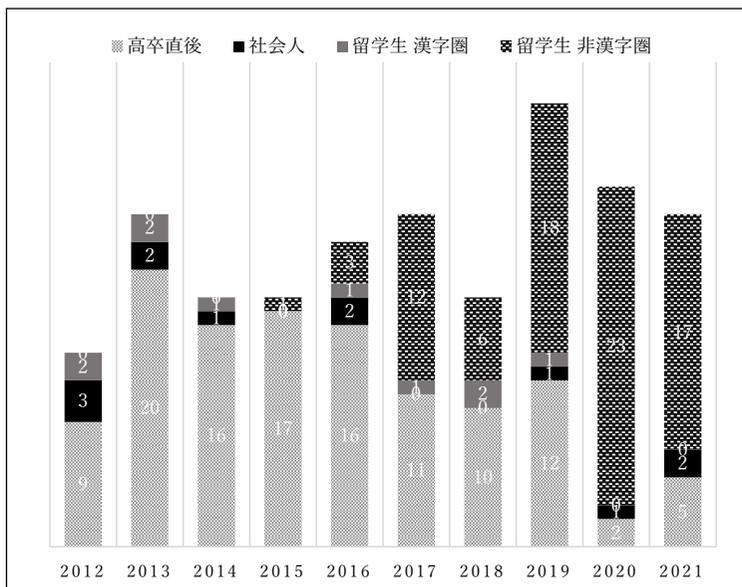


図2. 対象学生：日本人（高卒直後又は社会人）と留学生

(3) 「価値交流学习」の内容

中川（2021：p.30-31）にも述べたが、介護者としての自分自身の理解を目的に「自分の大切にしている価値について」グループで意見を述べあい、対話を通して他人の意見を批評せず十分に耳を傾け最終的に合意形成を図る体験を行っている。7つの価値「権力」「健康」「学歴」「愛情」「名誉」「金銭」「誠実」を提示し、最初に各個人が「自分が大切にしている価値」を優先するものから順に1～7の数字を「自分の順位」に記入する。次に、グループの他のメンバーの優先順位を聞き、「他者の順位」に書き写す。その後、自分と他者の優先順位の差（ズレ）を、それぞれの項目ごとに記入する。マイナス（-）はつけず、大きい数字から小さい数字を引く（図3参照）。そこまでの作業を終えたら、グループでの対話を行う。対話を通してグループとしての優先順位を決める。しっかり聴く、話す。合意できたものだけを「合意順位」に記入する。学生に対し注意事項として、話し合いの過程（対話を行うこと）が大切なので、多数決で答えを簡単に決めるのではなく、それぞれの考

か ち こうりゆうがくしゅう  

## 価値交流学习

コミュニケーション技術 2021.6.25 No.2

学籍番号 (                      ) 名前 (                      )

2. 調べた7つの項目を**自分にとって一番大切なものから順に**1～7の数字を「自分の順位」に記入する。
3. グループのほかの人の**優先順位**を聞き、「**他者の順位**」に書き写す。
4. 自分と他者の**優先順位**の差（ズレ）を、それぞれの項目ごとに記入する。マイナス（-）はつけず、**大きい数字から小さい数字を引く**。
5. グループメンバーで話し合い、**グループとしての優先順位**を決める。しっかり聴く、話す。  
合意できたものだけを「**合意順位**」に記入する。

※話し合いの過程が大切なので、多数決で答えを簡単に決めるのではなく、それぞれの考えや意見をしっかりと聴く。まとまらなければ、その考えや意見から発見したこと、わかったことを記す。

		権 力	健 康	学 歴	愛 情	名 誉	金 銭	誠 実	差合計
自分の順位									
他	名前 1								
	自分との差								
	名前 2								
	自分との差								
	名前 3								

図3. 価値交流学习の学生への配布資料の一部

えや意見をしっかりと聴く・伝えること、また、「自分の順位」は今の時点での思いなので対話しながら気持ちに変化してもかまわないこと、気軽な気持ちで取り組むこと、まとまらなくても、その考えや意見から発見したこと、わかったことを記すことが大切であることなどを伝える。

#### 4. 実際の「価値交流学习」から見えてきた学びの過程

年度によって多少の差はあるが毎年学生に人気の授業であると筆者は感じている。それは北田（表3）の対話力構造化表による「対話への意識」のなかの「傍観者の態度で、対話に対する意識が希薄である」と見られる態度・行動を示している学生がほとんどない状況であることが根拠である。中には「自信のなさから意見を言えなかったりする」学生や「少数意見を切り捨てたり、深く考えずに結論を急いだりする」学生も存在するが、「主体的・受容的な雰囲気の中で対話できる。様々な意見を出し合って論議を広げようとする」場面に授業内で出会っている。筆者がファシリテーター役として意見が出にくい状況の時は、例を挙げてみたり逆の考え方を示して揺らぎを起こさせたり、話の流れを整理して理解が促進されるような声をかけたりしながら対話が深まるように支援する場合もある。図1からもわかるように14～32名の少人数のクラスであるため人間関係ができあがってしまう前に行う方が日本人の場合グループワークが成立しやすいと推測し、2019年度までは全15回中第2・3回あたりに90分～130分位かけて行っていた。また、小グループでの対話は異質性の高いグループの方が高い学習効果が得られるといわれていることからメンバーづくりにも工夫してきた。性別・年齢・出身国・課外活動歴などに配慮し、グループによい刺激となるような独創性や創造性のある議論が展開できるよう意図してきた。18歳の女子で積極的に意見を交わすことを好まない学生が集まってしまうと合意形成がすぐできてしまい、価値についての揺らぎが起これば議論が深まらないケースもある。また、ある学生は「金銭」が一番という価値観の持論を主張し続け、他者の考えに興味を持ち議論を広げることができず思考停止しているケースや、自分の意見は言うものの他者の意見と自分の意見の共通点や相違点に気づけていない学生など個々には対話力の差が現れていることも窺えた。

図2のように2019年度以降留学生が増加すると授業進行が難しくなった。7つの価値の意味調べを事前学習課題とし、グループメンバーがすべてネパール出身者の場合はネパール語で議論しても良いことにした。また、コロナ禍で対面授業ができなかったこともあり、2020年度は第11・12回に計画を変更し180分かけて行った。2021年度は第10・11回に設定し、6人×4グループに編成し各グループに日本人を配置することができ、やや充実した対話授業が実践できた。

対話内容を再現してみる。例えば、図4のあるグループ（2018年度）の対話では、「好きだよという気持ちは持てるといいな。愛情は欲しいな」という言葉に対し「好きな人に好きと言っても、誠実さがないと愛情が認められない」という意見が出て「愛だけある人

## 価値交流学習

グループでの合意順位を話し合うなかで出された意見を挙げる

グループ名 ( △△△△ )  
グループメンバー名前 (1. ◎.さん      2. △△△△      3. ☆☆ )  
(4. ○○○○      5. ●●りん      6. ▲▲ )

【グループでの合意順位】  
1(健康)→2(誠実)→3(名誉)→4(金銭)→5(権力)→6(学歴)→7(愛情)

【話し合うなかで出された考え・意見をまとめる】

◎.さん →      愛だけあって誠実かよと (偏)はわり

○○○○ → 誠実の中に愛情ある!  
ハグしてもお腹は空くでしょ?

3位... お金 or 名誉  
それだけでも 権力かと

権力 前半

3番    3番  
健康, 愛情, 金銭, 誠実    2番

1番 → 人生に必要な!

①

② → 誠実がないと人に信じてもらえない。生活に支障が出る。

③④⑤, 好きな人を守りたい, 助けたいと思っても 名誉権力がないと人を動かすのは無理

↑  
好きとかはいいかい

権力, 学歴, 名誉  
7    5    6

欲しい, あるといふ  
好きだよ!

愛だけある人

※ 誠実とよ

信用できない

↑

◎◎

↑

世界

図4. 学生たちの対話から出された意見のまとめ例

では信用できない」「愛があってもハグしてもそれだけで満足できない。お腹はすくでしょ!」「誠実の中に愛情がある」「誠実がないと人に信じてもらえない。すると、生活に支障が出る」と続く。その後、「好きな人を守りたい、助けたいと思ってもお金がないと守れない」という意見に、「では、金銭を3位にしますか」という投げかけがあり「3位は金銭か名誉かなあ」「いや、名誉だけでは、それだけでは人は動かせない。やっぱり権力がないと…」となり「では、権力は前半かな?」「名誉がある人は、信頼されるよね」等々、対話が深まっていき次々と意見が交わされた。このグループの構成は日本人3名(M県北部2名、M県南部1名)、中国出身1名、ネパール出身2名の合計6名の女子であった。最終的に1位「健康」2位「誠実」3位「名誉」4位「金銭」5位「権力」6位「学歴」7位「愛情」という合意順位を導き出した。その過程についてわかりやすくクラス全員に発表することもできた。このグループは、北田(表2)の対話のステージ「共創型」の「全員が当事者

意識をもって対話できる。お互いの考えの違いを生かして、新しい考えを生みだそうとしている。」という高いレベルの対話が実現できている。

クラス全体の発表を終えた後、学生に振り返りシートの記入をさせている。学生の提出されたシートの内容の一部を表6に挙げる。また、この授業に関する2021年度のある学生のコメントを以下に紹介する。

授業で一番印象に残っているのは、価値交流学习です。グループ内で私は意見の取りまとめをしていましたが、最初の1位、2位がなかなか決まらず「授業時間内に終わらないのでは…」と思うほどでした。その中で私は3つの事を心がけました。

1つ目は少数意見を切り捨てないことです。たしかに多数決にすれば順位づけは早いかもしれませんが、他の人の意見や考えを知る事は自分の視野を広げるチャンスだと考えました。2つ目は、ネパール人留学生にも分かりやすい説明をする事です。ネパールの人にも様々な考え方を知ってもらおうと同時に日本語のあいまいな表現からも思いや考えを感じ取ってもらえれば良いと考えました。3つ目は、全員で質問をして本当の思いや考えを引き出す事です。何度か質問を繰り返すことにより、深い所まで相手を知ることができると考えました。この授業でコミュニケーション技術の重要性が学べた事がとても良かったです。

表6. 「価値交流学习」振り返りシートの内容（一部抜粋）

この話し合いや発表で、気づいたこと、わかったことは何ですか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人それぞれ意見が違うから相手の意見も尊重していきたい。考え方が似ている班もあれば全く違う班もあり楽しかった。みんな積極的に話し合いに参加して話すことができた。どれだけ反対の意見でもやさしく聞いてくれたからよかった。</li> <li>・グループによって順位が違って国（文化）によって考え方が違うことに気づいた。みんな同じ意見ではないことを知れて面白かった。</li> <li>・自分の考えを言って他人の考えを聞いて納得することもたくさんあったので、他の人の意見をしっかりと聞くことは大切だと思った。</li> <li>・人の意見を聴くことによって、言葉（価値）の印象が変わり、それぞれの言葉（価値）に繋がりがあることがわかった。</li> <li>・人によってこだわりや重要なことは違うが、分かりやすい説明や話し合いで思いが伝わるのがわかった。</li> </ul>
この話し合いや発表で、気づいたことを今後の生活にどう生かしますか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の価値観に自分の価値観を押しつけて相手の価値観を否定したりせず、きちんと尊重していこうと改めて思った。</li> <li>・最初からものを決めつけないことが大切だ。だから周りも気にしつつ自分も意見を言えるようにしていきたい。</li> <li>・あまり話をしたことのない人と話ができ意外と価値観が似ていて話をしてみてその人の印象が良い意味で変わった。</li> <li>・一つのテーマで意見交換することは、人の話を聴く力につながり、相手のことを理解する力になると学んだ。</li> <li>・自分の考えだけが良いのではなく、他の人の考えもとても良いとわかった。</li> <li>・自分の意見が正しく伝わっているか確認することが大事。</li> <li>・人はみんな考え方が違うということを覚え、その人に合った介護とか関わり方をしていかなければならないと思った。みんなで話せることを増やしていきたい。</li> </ul>

## 5. 成果と今後の課題

介護のエキスパートとして求められる力量を習得する道のりは長い。今、介護福祉士養成校は多様な学生がともに学び、対立や意見の食い違い、文化の違いを乗り越えながら多様性を受け入れ共生していく環境の中に置かれている。この環境はまさに対話力を育む場であり、コミュニケーションを通して他者への思いやり、他者を理解することの難しさを体験できる場である。今後、介護現場で明確な表現ができない方々の感情を読み取り、その人と共同して一つひとつの介護を創り上げていく介護福祉士になるためには、まず、自分自身の価値観や人間観に気づくこと、そして、自己の感情をコントロールしながらアサーティブ（相手の気持ちや意見に気を配りながらも、自分の意見をはっきり言う。相手にさわやかな印象を与え、いい関係が維持できる）な表現ができる技術を身につけることが必要である。そのために筆者の「価値交流学习」は学生たちにコミュニケーション技術獲得の意義や必要性を気づかせる良い機会となっており、「4. 学びの過程」に述べたことから一定の成果が出ていると考える。筆者は「失敗しても許してもらえ、受け入れてもらえる雰囲気づくり」「自分だけの成長では足りない、みんなと一緒に成長していく場」をモットーに授業展開を行っている。

今後は、学生の対話力をより深化させるために、北田（表3）の対話力構造化表をアレンジしたものを学生が自己評価できるよう活用して、学生の対話力の成長を可視化できるように努めたい。

## 引用・参考文献

1. 川廷宗之編（2019）「介護教育方法の理論と実践」弘文堂、pp.20-24
2. 多田孝志（2017）「グローバル時代の対話型授業の研究 実践のための12要件」東信堂、p.63
3. 多田孝志（2018）「対話型授業の理論と実践 深い思考を生起させる12の要件」教育出版、pp.5-6
4. 多田孝志（2009）「共に創る対話力 グローバル時代の対話指導の考え方と方法」教育出版
5. 北田奈緒子・西村公孝（2021）「対話的な学びをめざす授業実践とその考察」鳴門教育大学授業実践研究－授業改善をめざして－第20号、pp.123-130
6. 中川千代（2021）「留学生に対する情報伝達の現状と課題～報告・連絡・相談のあり方～」高田短期大学介護・福祉研究第7号
7. 諏訪茂樹編、大谷佳子著（2007）「利用者とうまくかわるコミュニケーションの基本」中央法規出版、p.50

